

脳卒中～前触れ症状を見逃さないで！

文=佐々木 あゆみ(保健師)



■脳梗塞
脳の血管が詰まることでその先の神経細胞に血液が行き届かなくなり、脳の神経細胞が障害される病気です。脳卒中は原因によって、4つの種類に分類されます。

脳卒中はどんな病気？
脳の血管が詰まったり破れたりすることで、脳に血液が行き届かなくなり、脳の神経細胞が障害される病気です。脳卒中は原因によって、4つの種類に分類されます。

脳
卒中は、例年日本における死因の上位となっており、寝たきりになる原因の3割近くが脳卒中などの脳血管疾患とも言われています。

■過性脳虚血発作
脳の血管が詰まるもののうち24時間以内に症状が消失するもので、脳梗塞の前触れ発作が多いです。

心臓にできた血栓が脳に流れてきて血管を塞ぐタイプ。不整脈が原因で起こることが多いです。

タイプ1(アテローム血栓性脳梗塞)
脳の血管が動脈硬化によって狭くなり、そこに血栓が付着して血管が詰まるタイプ。動脈硬化を発生させる高血圧・高脂血症・糖尿病などの生活習慣病が原因となります。

タイプ2(ラクナ梗塞)
脳の細い血管が狭くなり詰まるタイプ。日本人に最も多いタイプで、主に高血圧によって起こります。

タイプ3(心原性脳塞栓症)
心臓にできた血栓が脳に流れてきて血管を塞ぐタイプ。不整脈が原因で起こることが多いです。

わたらなくなり、酸素や栄養分を送ることができず障害が生じる病気で、脳卒中死亡の60%以上を占めています。脳梗塞でも、さらに3つのタイプに分けられます。

■くも膜下出血
脳を覆っている三層の膜のうち、軟膜とくも膜の間の動脈瘤が破れて出血し、膜内にあふれた血液が脳全体を圧迫することで生じる病気で、脳卒中死亡の10%強を占めます。突然激しい頭痛、嘔吐、けいれん、意識消失など重篤になる場合が多いです。

脳卒中の前触れには下表のような症状が出る場合がありますので注意しましょう。

■脳出血
脳の中の細い血管が破れて出血し、神経細胞に障害が生じる病気で、脳卒中死亡の約25%を占めます。高血圧や加齢によって血管が弱くなり、血管が破れて起こることが多いです。日中活動しているときに、頭痛やめまい、半身まひ、意識障害などが起こります。

とも言われています。数分以内にその症状が完全に消失する場合があります。

☑ 要チェック！ その症状が脳卒中の前触れかも？	
<input type="checkbox"/> 身体の片側がしびれたり、手足に力が入らない。	<input type="checkbox"/> 足がもつれて歩けない。
<input type="checkbox"/> 話したいのに、急に言葉がでなくなる。	<input type="checkbox"/> ろれつが回らない。
<input type="checkbox"/> 人のいうことが一時的に理解できない。	<input type="checkbox"/> ものが二重に見える。
<input type="checkbox"/> 片目が見えなくなったり、視界の半分しか見えない。	<input type="checkbox"/> 食べ物が一時的に飲み込めない。

※これらの症状はすべて出るわけではなく、症状が続く時間も5~15分と短い場合が多いので、気づきにくいです。前触れ症状がみられた場合は、早めに病院で受診しましょう。